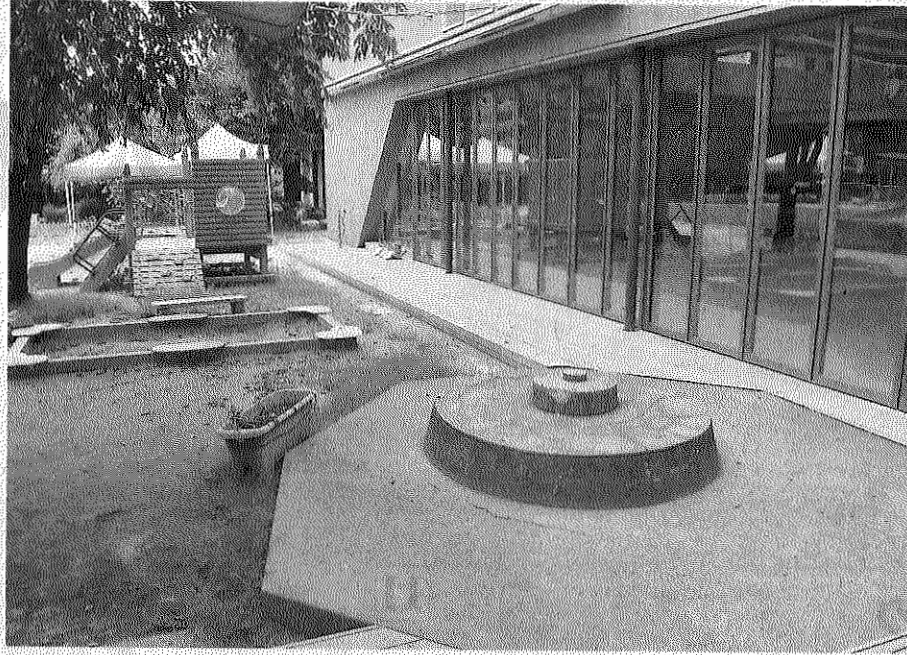


高射砲の跡 保育園の庭に

園児に「平和」語る きょう慰霊祭



高射砲台座跡を囲むように園舎が建てられている17日、三鷹市大沢4丁目

三鷹「椎の実子供の家」

戦後80年

調布飛行場を眼下に望む高台に、戦争遺構が残る保育園がある。園では毎年、幼い子どもたちに平和の大切さを語りかけている。「自分で考えて、行動できる人になってほしい」という思いを込めて、カラフルな遊具が置かれ、ユズやミカンの木が青々と茂る園庭には、高射砲の台座跡がある。三鷹市の保育園「椎の実子供の家」。戦時中、米戦闘機を地上から砲撃するために設置された。

直径3メートルのコンクリート製。段差を生かして花を植えたプランターを置いたり、戦後、三鷹市長だった故・鈴木平三郎氏が「戦争の悲劇を忘れないために」と、高射砲



襲来したグラマン戦闘機の写真を見せながら、園児に戦争について話す「椎の実子供の家」理事長の柴田直樹さん13日、三鷹市上連雀6丁目

「大変な戦争が日本でもあったの」

「けんかした時、仲直り考えようね」

陣地跡地を私費で購入。72年間に社会福祉法人「楽山会」を立ち上げて、土地を全て寄付した。そして、平和教育の大切さを訴えたマリヤ・モンテッソーリ博士の理念に共感し、モンテッソーリ教育の精神を採り入れた保育園をつくった。

鈴木氏の妻で、園長も務めたスミさん(96)は「当時はまだ戦災孤児がたくさんいた。子どもは宝。二度と戦争を体験させてはならないと思っています」と話す。

ここに陣地を構えていた陸軍東部1903部隊調布隊は75年、戦友会を発足。保育園に平和記念碑を建てた。そして、米戦闘機による攻撃で4人の兵士が亡くなった2月17日と終戦の日8月15日に慰霊祭・平和祈念祭を行い、園児も参加してきた。

戦友会のメンバーと園児は一緒に給食を食べ、遠足にも出かけた。そうした交流の中で、戦争の話にも触れていった。戦友会は20年前に活動を停止。以降、同園理事の柴田直樹さん(75)が語り部を引き継いでいる。

「5歳くらいになると『人間はどうして戦争するんですか』なんて聞いてくる。難しい言葉で伝えるのではなく、『一度争い出すと止めるのが大変。みんなもけんかをした時に、どうやって仲直りするのかわからないといけないよね』などと伝えていきます」

終戦の日を前に13日、同じ法人が運営する「第二椎の実子供の家」で柴田さんは4、6歳の園児らに語りかけた。「みんな、戦争のことを知ってる？」

映像や写真を見せながら「たくさんの方が傷ついた、大変な戦争が日本でもあったの」と語る姿を、園児たちは真剣なまなざしで見つめた。

高射砲台座跡や、戦闘機を隠した掩体壕など、近隣にある戦争遺構について触れ、「今度行ったら見てみてね」と声をかけた。

そして、こう結んだ。「戦争をしない、平和な世の中になるよう、一生懸命自分できちんと考えてください」

15日は「椎の実子供の家」でも、園児と保育士による慰霊祭・平和祈念祭が予定されている。

(石川頼里)